

★去る1日に秋闘最後の団体交渉を開く～来期に向けて教職員の待遇改善に真摯に向き合え

医師や看護師の人員不足は、すべての施設で深刻な状況を迎えています!

医師・看護師の離職防止、人員の確保の決め手は、大学理事会がこれまでの大学運営のやり方を改め、教職員の賃金・労働条件改善に全力を注ぐことです……



組合だより

2022/12/7

東京女子医大
労働組合

自らの要求実現と医療改善のために
貴方も労働組合へ加入しましょう!

去る1日に今秋年末闘争の最後の団体交渉を行いました。労働組合は、「今回の年末一時金が昨年比で0・2ヶ月アップし、3年連続しての前年比引き上げとなったことは一定評価するが、いまだ過去の水準からはほど遠く、他大学比較でも極めて低い水準であることは否定できない。これまで賃金や一時金を低く抑えてきた理事会の対応が、看護師や医師の離職に拍車をかけ、人員確保を困難にしていることを理事会は強い認識と危機感を持つべきだ」と理事会の対応を厳しく追求しました。

また、看護師の確保状況については、現段階で採用目標に対して80%弱しか集まっておらず、どここの施設も深刻な状況であるのは変わっていません。足立医療センターも新病院院開院後間もないにも関わらず、看護師不足で看護師は疲弊し、現場から「患者さんの安全が守られない」と不満の声が続出しており、早急に人員の確保が求められています。

大学当局は、「収支状況が厳しい中でも、教職員のことを考えて少しでも改善してきた。何よりも収支状況の改善が先決であり、それが出来ない」と賃金や一時金の引き上げも出来ない。患者数も少しずつではあるが増えつつあり、今後に期待もしている」「学内で『働き方改革』を積極的に進めている。教職員の意見も聞きながら、様々な改善策を検討しており、教職員が働き続けられる環境づくりに力を注いでいる。直ぐとはいかないが、人手不足も解消できると思う」と答弁していますが、この間教職員が納得できる具体的な施策が示されているとは思えません。「働き方改革」も、大学理事会の「独り善がり」になっていると言っても過言ではありません。

今年の賃上げでの「一号給昇給」や一時金の引き上げだけで、理事会が『これでよし』と思っているなら大問題です。これらはあくまでもこれまでの人件費抑制を改めるためのスタートであり、来期も含めた今後の理事会の対応が大きく問われていると言ってもいいでしょう。

★本院の労働者代表選挙で米山委員長が選出されました★

ご支持・ご支援をいただいた教職員の皆さんに心から感謝を申し上げます!



本院で行われた「労働者代表選挙」の第3回目の投票は、労組委員長の米山さんが過半数を大幅に超える信任票を獲得し、労働者代表に選出されました。

この間米山委員長の「労働者代表当選」に向けて、多くの教職員の皆さんからご支持・ご支援いただいたことに心より感謝を申し上げます。

労働組合は、文字通り労組の委員長である米山労働者代表を中心に、今後とも教職員の皆さんの声や切実な要求を大事にして、引き続き「教職員の労働条件改善」に向けて、全力で運動を進めていきたいと思っております。

今後とも、多くの教職員の皆さんのご支援・ご協力をよろしくお願いたします。

【開票結果】

●投票数	3,371 票
●過半数票	1,686 票
[候補者名]	[信任票数] [得票率]
米山 守	2,533 票 75.1%
中野宏紀	838 票 24.9%

みなさんの
加入を
まっています。



貴方の加入が労働組合の力を強めて、賃金・労働条件の改善につながります!

♥あなたも労働組合に加入しましょう♥

黙っていては何も解決しません。組合に加入して理事会に要求・声をぶつけましょう!

●第一支部(新宿本院)【内線】38811 【直通】3357-3785

※連絡が取れない時は、第一支部の組合メール(joshiidairouso@yahoo.co.jp)を活用して下さい

●第二支部(足立医療)【内線】24512 (昼休み時間連絡可能) 【ホームページ】女子医大労組で検索

